

所在地：目黒区目黒 1 - 15 - 28 J R・東急目黒線・東京メトロ・都営 目黒駅 徒歩 10 分

学校名： 田道小学校		作成年月日：H.9.12.02	調査日：H.16. 7/13.7/23
施設タイプ		地上シート型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度行った水草の除去作業の成果もあり、水中への繁茂は抑制されている。ハンゲショウ、ミゾソバ、クサヨシは継続して多く見られるがオモダカが見られなくなった。オオカナダモは前年の除去作業後に生育が抑制されている。 ・西側に生育しているイイギリ除去すべき状態になっている。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・メダカ、ヤゴの抜け殻を確認。 ・オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、アメンボが飛来していた。 	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・透明度があり、良好である。 ・白い濁りは見られなくなった。 	
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・南側のサクラ、東側のシラカシなどが枝を伸ばし、東から南にかけて池を覆う状況で、剪定の必要性が高まっている。 	
	土 壌	<ul style="list-style-type: none"> ・水際の多くの部分で土が池に落ちてシートが露出し、草が生育できない状態の部分があった。 後日泥上げを行い改善した。 ・水深は全体的に 20～30cm 程度であった。 泥上げで改善。 	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・4 . 5 年生が主体になって管理・観察を行っているが、定期的な観察・作業は行われていない。 	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6 月には水面の 8 割ほどが覆われたが、ハンゲショウ、クサヨシの抑制により、7 月には水面十分確保され、作業の効果が見られた。 	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も定期的な観察は行われていないが、授業での利用は継続的に行われている。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・授業での活用が基本であるが、水際草本の育成のために泥上げさ作業を行う予定である。 	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 9.12.02	池の作成	4 年生
10.05.07	春の植物調査	専門家
05.29	春の昆虫調査	専門家
06.05	水草の植え付け	4 年生有志
06.16	プールのトンボ救出作業	1 年生
06.16	プールの水生昆虫調査	専門家
08.13	夏の植物調査	専門家
09	秋の昆虫調査	専門家
10.28	秋の植物調査	専門家
11.06.02	池を深く保つための泥上げ	4 年生有志
12.	授業での活用	各学年
13.04.	周囲の草地や竹林もビオトープとして管理することになり、観察路の設置を行った。	4 年生
09.27	日当たりを良くするための桜の剪定	4 年生
14.04.	観察結果の掲示板を設置した。	4 年生
07.03	桜の剪定、泥上げ	5 年生
07.08	利用するための勉強会	5 年生
15.	3 . 4 年生が総合学習などの中で、泥上げや散策路の世話をしている。	各学年
16.	4 年生が総合学習の活動計画に基づき、観察、環境整備、他の小学校のビオトープ調べなどを行っている。	4 年生及び各学年

池の植物管理



調査時（平成15年6月）

草取り作業により、水面の維持は図られているが、水際の土の多くが池に落ちており、水深が浅くなっていたため、泥上げ作業を行った。



調査時（平成16年6月）

昨年と同様に周辺の草地が水面を覆うように繁茂し、水深も浅くなっているため、今年も水面の維持、水深の確保を目的に、児童による管理作業を行うこととした。



調査時（平成16年7月）

5年生及び教師、主事により、泥上げ、草取りの作業を行った。一時的に水際の植生が失われた状態であるが、草本類の回復が期待できるとともに、水面の確保が図られた。



落ち葉ンク

調査時（平成15年7月）



落ち葉ンクが周辺環境に馴染み、昆虫類など多様な生きものの生息する環境の一つとして役立っている。



調査時（平成16年7月）



除草範囲の指示が十分行われず、草を残す部分まで除草されてしまった。落ち葉や枯れ枝による腐葉土づくりのフィールドが失われたが、新たな活動の開始として取り組むこととした。

樹林地の観察エリア

調査時（平成15年7月）



林床の観察エリアには多様な草本の生育が見られ、今後は、植物や昆虫などの調査により環境の変化を記録するなどの活動の可能性が高まっている。

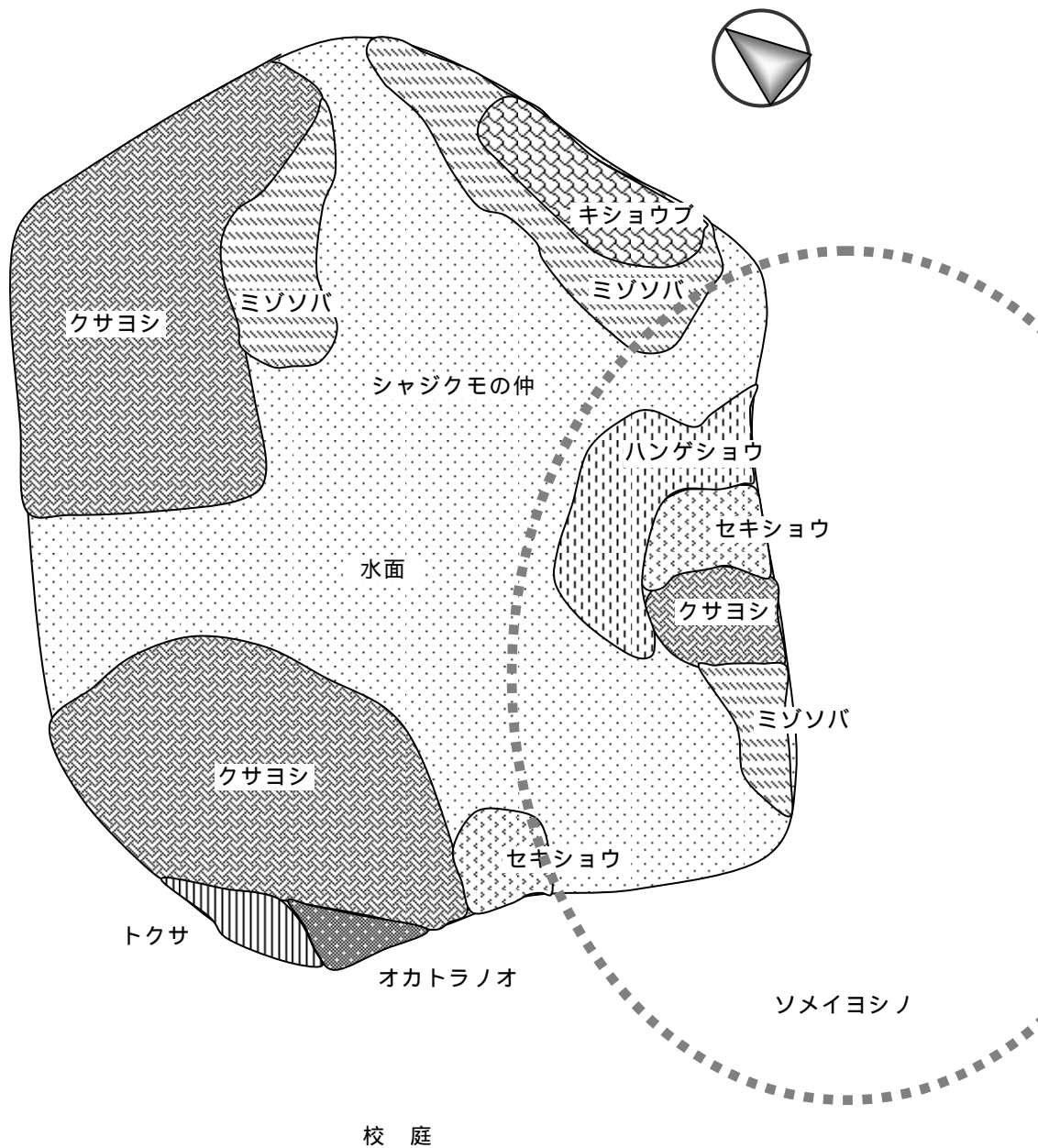


調査時（平成16年7月）



観察エリアに観察路を設置した部分の草本は落ち葉ンクの周辺と同様にほとんど除去されたが、新たな活動空間として、観察を行うこととした。

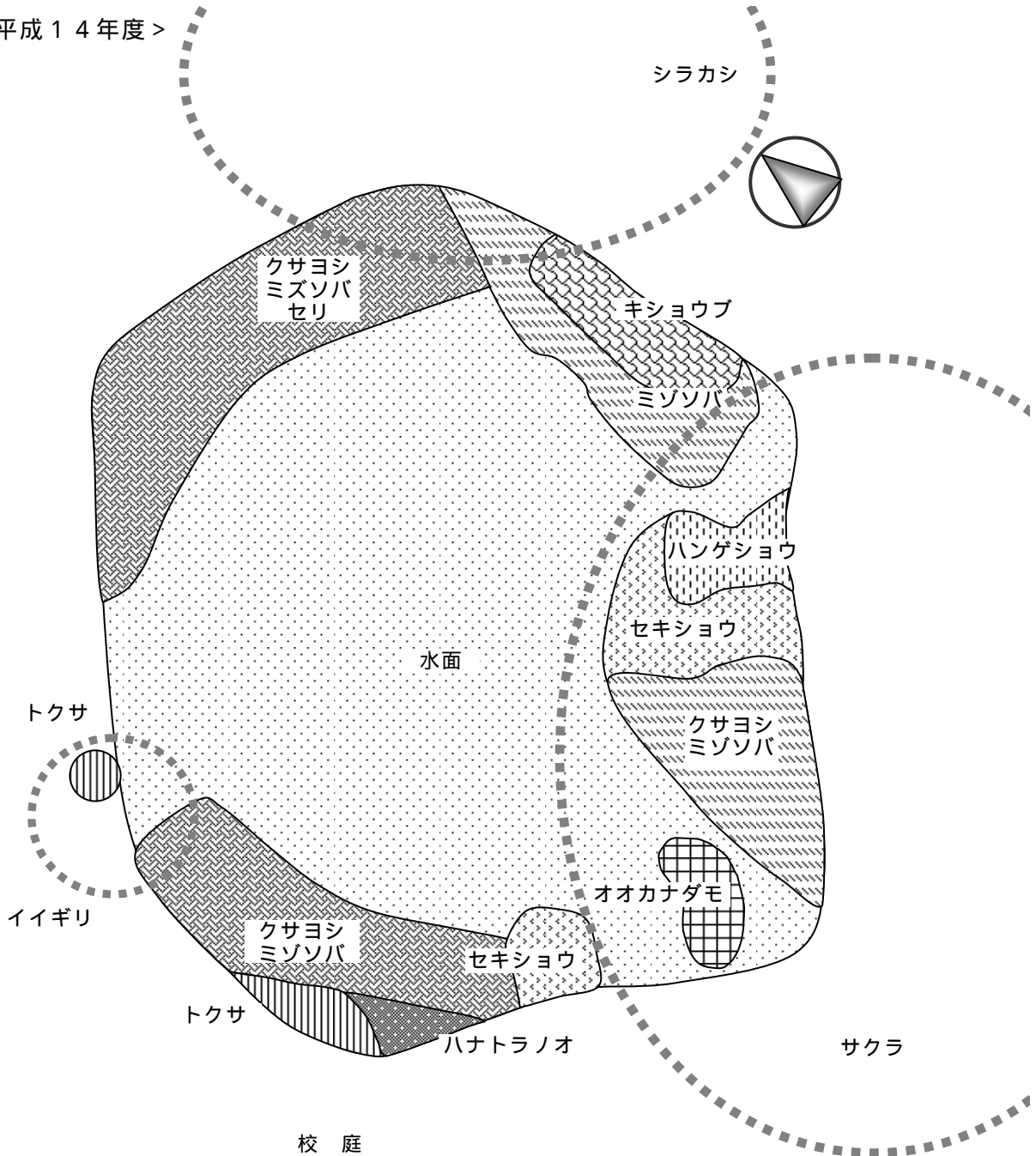
田道小学校
<平成13年度>



南東側がサクラに覆われているため陰になりやすいが、草本類の生育や種類構成は概ね良好である。ハンゲショウが繁茂しているのが特徴である。ただし、水がやや濁っており、何らかの汚濁物が混入している可能性がある。

水中には、シyajikモ類が繁茂しており、水面を覆わないように随時除去する必要がある。

<平成14年度>



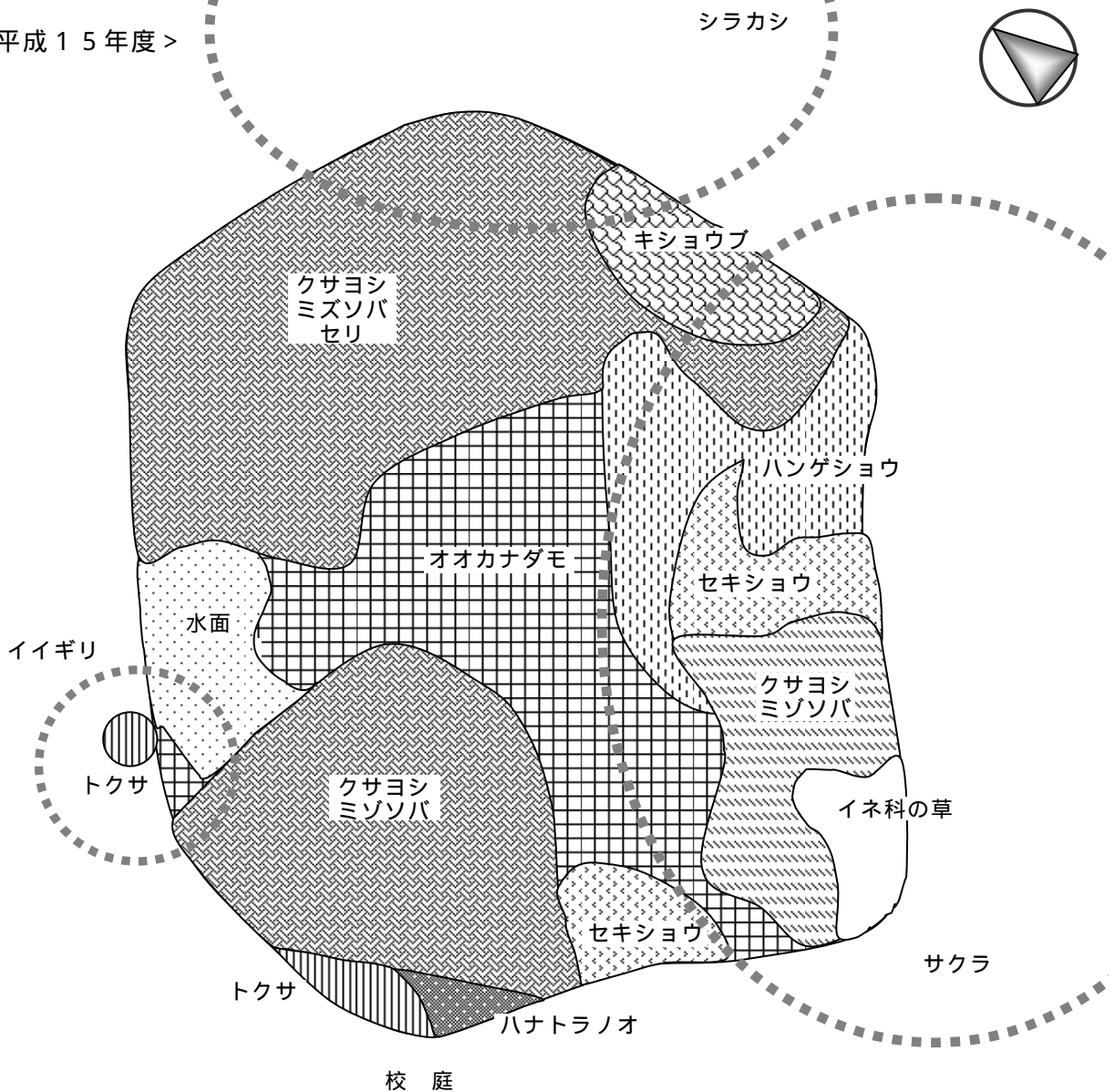
南東側がサクラに覆われているため陰になりやすかったが、サクラの枝の剪定によりピオトープ周辺は明るくなった。そのため、水際にはクサヨシなどの草本類が繁茂し過ぎて、水際へ近づきにくくなることが予測されるため、観察しやすい部分を確保するために、適宜、水際の草本を除去する必要がある。

昨年度水中に繁茂していたシャジクモ類は認められず、オオカナダモがわずかにみられる程度である。

西側のイイギリは現在2mほどに生育しているが、生長が早いため今後の管理について検討を行う必要がある。

田道小学校

<平成15年度>



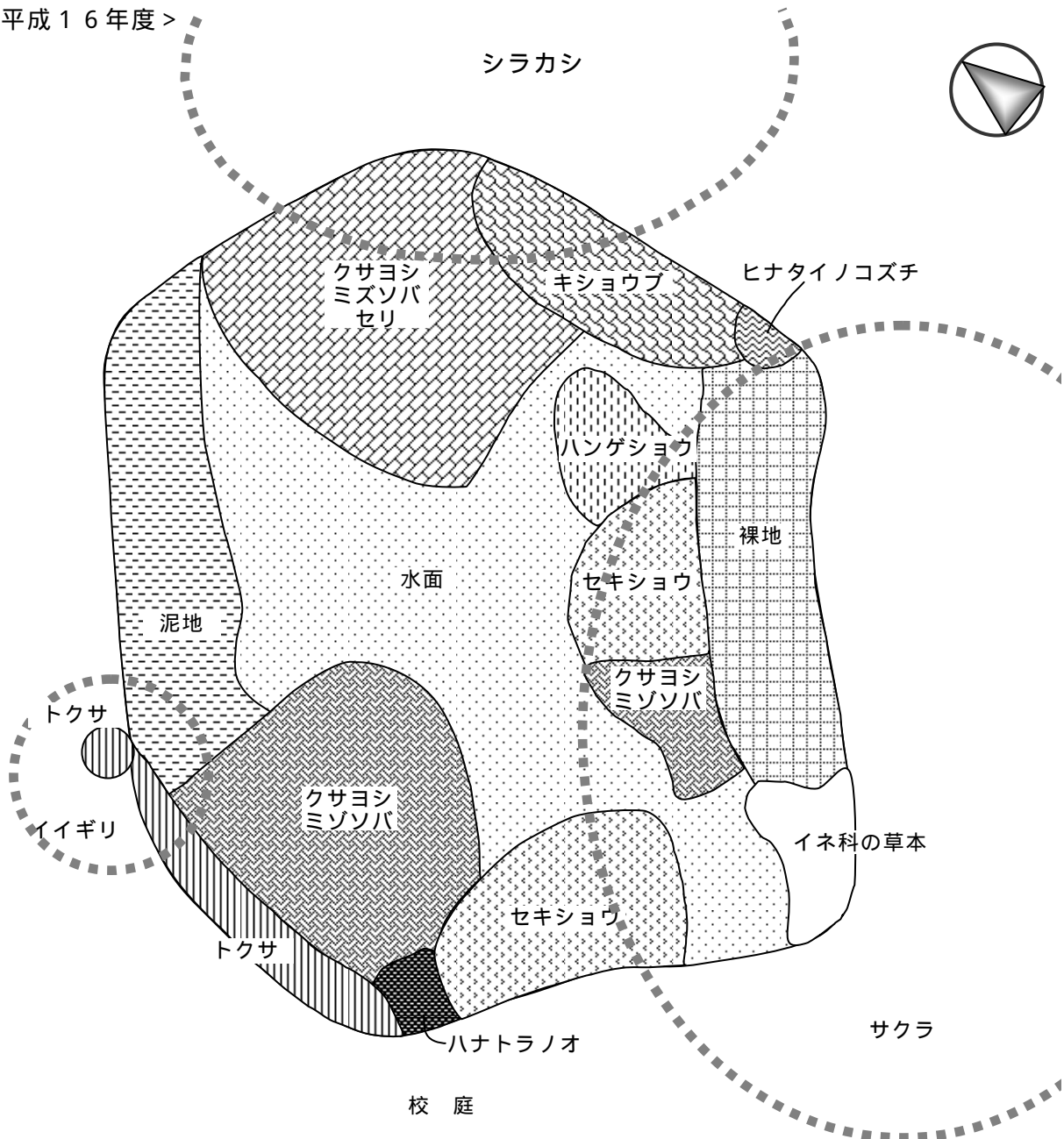
昨年剪定した南東側のサクラに加えて、東側に生育するシラカシなどの常緑樹の伸長が目立ち、午前中の日当たりが悪くなっている。そのため、今後数年間の日当たりを考慮した剪定を実施する必要がある。

水際のクサヨシ、ハンゲショウは例年のように繁茂して水面を囲む形となっているため、水面が観察しにくくなっている。水中のオオカナダモの繁茂が著しく、除去作業が必要である。ただし、一度に大量に除去した場合には環境への影響が大きく、さらに水質浄化機能が低下をするため、随時水面が7割ほど見える状態にする作業が必要である。

また、水際の土が池に落ち草本環境が絶たれている範囲が広がっている。これらの改善のためには、池全体を広げて、水際斜面を緩やかにする「作り直し」によって、周辺の草本環境と連続させる手法が考えられる。

昨年度、除去の検討を提案した西側のイイギリは現在4mほどに生育し、池全体を暗くする要因になっているため、伐採をする必要がある。

<平成16年度>



ビオトープ西側のイイギリの伸長が目立ち、今後日当たりが悪くなる可能性が高いため、できるだけ早く伐採する必要がある。もし、残す場合には下枝を高くして日当たりを確保できるようにする必要があり、桜の枝落としと一緒に考える必要がある。

水際のクサヨシ、ハンゲショウは例年のように繁茂して水面を囲む形となっているため、観察しやすくするためには、草を刈り取る部分とそのまま生育させる部分を区分し、環境への影響を最小限にしながら観察する場所を確保する方法がある。水中の観察には、先端にガラス部分(コップやフラスコなど)をつけた筒を水中に入れて見る方法がある。(つくるのも楽しい!)

池内の泥をあげてビオトープのまわりに泥を敷いたため、一部、池の周りに裸地が出来た状態となっている。今後、この部分にどのように植生が復活していくのかを観察・記録することも重要な活動の一つになる。